ザ・インサイダー THE INSIDER

安倍首相が呼び寄せる"731部隊の亡霊"!?

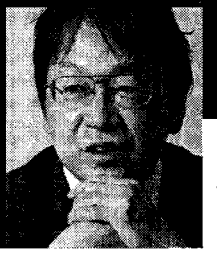
バイオハザードの恐怖

長崎大学 BSL-4の危険度

致死性ウイルス研究施設

長崎大学で、エボラ出血熱やラッサ熱など、致死性ウィルスの研究施設「BSL－4」の建設工事が始まった。施設建設に反対する住民が、長崎大を提訴する動きもある。病原体が漏れ出して大惨事を招く危険性はないのか。この施設を後押しする安倍政権は何を目論んでいるのか。硬骨のジャーナリストが核心に迫る。

ジャーナリスト
斎藤貴男



「先日、長崎大学病院のボヤ騒ぎが報道されました。大学側は消防機関への通報を怠り、11日間も放置していたそうです。安全管理体制はどうなっているのでしょう。BSL－4のような施設を、あなた方は本当に扱えるのですか？」

1月28日午前7時半過ぎ、長崎市坂本。原爆の爆心地にほど近い長崎大医学部の正門からやや離れて集まった40人ほどの住民が、早出の職員らを前に、懸命のアピールを繰り広げていた。

キャンパスの敷地内で、この日、BSL－4施設の建設工事が始まった。BSL（Biosafety Level）とは病原体研究施設の国際基準。危険度が上がるほど数字が大きくなり、エボラ出血熱やラッサ熱、マールブルグ病など、感染力も致死率も高い最悪の原因ウイルスの培養や保管、遺伝子組み換え操作、動物実験等々が可能になるのが「レベル4」である。

2021年7月末までの完成が予定されている。経済のグローバル化で国境を越えた人の移動が激増し、多様な感染症が広がるリスクも高まっているのに対応。「ここ長崎から人類の安全・安心に貢献していきたい」（広報資料にある河野茂学長談話）とは長崎大の主張だ。

病原体が漏れ出したら大惨事

世界にはBSL－4施設が、少なくとも24カ国、59カ所以上も設置されているという。日本でも1980年代に東京都武蔵村山市で国立感染症研究所（以下、感染研）、茨城県つくば市で理化学研究所がそれぞれ建設したものの、住民の同意が得られず、計画通りには稼働していない。このため日本学術会議がその必要性を強張した2014年の提言には、こう書かれている。

〈G8諸国の中で、自国でBSL－4病原体の診断・研究等を行える体制を整えていない国は日本だけであり、かなりの遅れをとっていると言わざるを得ない〉

はたして感染研は昨年11月、20年東京五輪に備えた検査体制強化を掲げ、病原体のウイルス輸入を開始したい意向を表明。詳細は後編に譲るが、このタイミングには国家的に統一された意志を感じる。

いずれにせよ、万が一にも病原体が漏れ出したら大惨事になりかねない。9・11同時多発テロの直後の米国で、フォートデトリックの陸軍感染症医学研究所から持ち出されたと思われる炭疽菌がテレビ局や上院議員らに送りつけられ、5人の死者を出した現実もある。

近隣住民たちの恐怖は当然だ。現場と目と鼻の先で自治会長を務める道津靖子さん（59）に話を聞いた。長崎大薬学部卒の現役薬剤師である。

「私たちの自治会では約1

さいとう・たかお　1958年生まれ。ジャーナリスト。監視、格差、強権をルポルタージュによって批判してきた。著書に『機会不平等』『ルポ 改憲潮流』『失われたもの』『「明治礼賛」の正体』など多数

00世帯、約220人が生活しています。25%が60歳以上で、15%は小学生以下。つまり免疫力が弱くて感染しやすい人がたくさんいる。私も医療人ですから、研究や創薬の重要性は理解できます。ただ怖い、怖いと喚いているわけではありません。住民は、立地が問題だと言っているのです。

考えてもみてください。BSL－4が動き出せば、私たちは毎日、感染の不安を抱えた暮らしを強いられるでしょう。子どもが熱を出したら、親は普通、まずインフルエンザを心配して病院に連れて行きますね。でも、ここでは〝まさかエボラでは〟と、完治するまで不安に苛まれ続けることになるんです」

長崎大がBSL－4施設の設置構想を公表したのは10年5月。当初は「高度安全実験施設（レベル4）」と呼ばれていた。12年5月に最初の住民説明会を開き、以来、昨年末までに説明会や懇談会を累計83回、市民公開講座を同55回も重ねて、BSL－4の意義や安全性を訴えてきた。

それでも住民たちの不安は治まらない。15年3月にある地元自治会が実施したアンケートでは、BSL－4に「反対」が85%近くに達した。追随した他の自治会でも、結果はさほどかわらなかった。

「BSL－4に反対するなら病院も移転」

地域の本格的な反対運動が、かくて滑り出した。長崎大が16年5月に発足させた、近隣自治会長や地域住民ら、学識経験者、県と市の行政マン、大学側担当者で構成する地域連絡協議会は、もう21回を数える。武蔵村山市の感染研や、ドイツ・ハンブルクの市街地に立地するBSL－4施設の見学ツアーもあった。それで対話が進み、推進・反対の双方が納得できる解決への道筋がつけられればよかった、のだが――。

手元に一通の申し入れ書の写しがある。今年1月25日に「BSL4施設設置の中止を求める自治会・市民連絡会（BSL4中止連）」が山極壽一・日本学術会議会長に宛てたものだ。BSL－4建設に関わる法律が未整備な現状では、最も尊重されるべき前記・日本学術会議の提言の「国内でのBSL－4施設建設の要件」を、長崎大は無視するもりだから止めてほしいと要請している。

それによれば、提言は「要件」として経費および管理運営体制における「国の関与」と並べて、「地域住民の合意」を挙げている。にも

BSL－4建設差し止めの仮処分を申し立てた木須博行長崎大名誉教授